

〈PR〉

カラダの 相談室



みなみ堀江クリニック
院長 医学博士 南 和宏さん

第2回

COPD/肺気腫・禁煙外来

主に喫煙が原因となるCOPD／肺気腫。息切れ、咳・痰などの症状に加え、肺がんや心筋梗塞・脳梗塞など、他疾患の合併症も多い。予防には禁煙が不可欠。禁煙の意志はあるが継続に不安がある方は、医療機関で受けられることができる禁煙外来の受診を推奨する。

喫煙がCOPDの原因に 禁煙外来で禁煙の達成を

Q COPDとはどんな病気ですか。

A 主にタバコ煙を長期間吸入することで肺の組織(肺胞)が破壊されてしまい、息切れや咳・喀痰量の増加を来します。詳細な問診、胸部画像検査、呼吸機能検査などを行い総合的に判断します。

放置して喫煙を続けると、症状が悪化するのみならず肺がんなどの合併症や、肺炎を来しやすくなります。

Q COPDと喘息は症状が似ていますが、違いがあるのでしょうか？

A COPDは主に喫煙歴がある方に発症しますが、喘息は喫煙歴が無くても発症します。また、両者が合併するケースもありますので、咳・息切れ・痰などの症状がある方は自己判断ではなく、医療機関を受診することを勧めます。

Q COPDと診断されました。治療法や注意点はありますか。

A 呼吸機能検査によって病期が決まります。病期や症状に応じて吸入薬や呼吸リハビリテーションなどの治療を包括的に受けることが大切です。病期が進行し、軽い日常動作でも息切れが強い場合は、在宅酸素療法を導入することも可能となります。

肺がんの合併や、心筋梗塞・脳梗塞・高血圧や糖尿病などの生活習慣病が併存することもあり、注意が必要です。

また、ウイルス感染や細菌感染などにより急激に呼吸状態が悪化することがありますので、コロナウイルスやインフルエンザウイルス、肺炎球菌などのワクチン接種を含めた感染予防も重要となります。喫煙歴(過去の喫煙も含む)があり、息切れ、咳、

痰などの症状をお持ちの方は特にご注意ください。

Q タバコが身体に悪いことは認識しています。具体的にどのようなリスクがありますか。

A COPD、肺がん、心筋梗塞・脳梗塞などあらゆる疾患の発症リスクが高まります。

また、一般的に呼吸機能は20歳前半をピーク以降は加齢と共に低下していくとされていますが、喫煙者ではその低下が急速となり、次第に、軽い日常動作(階段の上り下りなど)でも息切れするようになります。最終的には酸素を吸わないと日常生活が送れなくなってしまう(在宅酸素療法)。

禁煙が健康寿命の延伸に寄与することは間違いありません。タバコを吸われている方は、一日でも早く禁煙することをお勧めします。

Q 1人では禁煙ができるかどうか不安です。

A 少しでも禁煙を考えられている方は、是非禁煙外来を受診してください。禁煙をサポートできる医師と一緒に、禁煙に取り組むことが出来ます。

具体的には、禁煙の意思があり、ある一定以上の喫煙歴がある方で、ニコチン依存状態と診断された場合(10項目からなる質問票で診断)、保険診療で薬物療法を用いた12週間の禁煙治療プログラムを受けることができます。

薬物療法は、貼付薬と内服薬があり、主に禁煙時に生じる離脱症状を緩和する目的で使用します。薬物療法を併用することで、禁煙成功率の向上が期待できます。

禁煙を達成した後も、健康寿命を延ばせるよう適切にアドバイスいたします。是非一度、呼吸器の専門医にご相談ください。



みなみ・かずひろ 神戸大学医学部卒。神戸市立医療センター中央市民病院、神戸大学医学部附属病院、住友病院副院長などを経て2023年5月開院。
日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医、日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、難病指定医、大阪市身体障害者福祉法指定医。

☆みなみ堀江クリニック 大阪市西区南堀江4の10の14
Tel 06・6531・3730

〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局